

住友化学(株)株主総会質問 (2012~2018年)

2018.8.20 板垣隆夫

★総会の約1週間前に事前質問状を送付し、当日はそれに沿って質問

<2012年>

オリンパス事件の原因として指摘された点。

- ①長期間にわたってワンマン体制を敷いた経営トップへの牽制機能の不全と、
- ②それをもたらす風通しが悪く、意見を自由に言えない企業風土(異論を述べるのが憚られる雰囲気)

【代表取締役及び監査役への質問】

1. 当社としても反省し教訓とすべき課題はあると考えるか、あるとするとどのような点か
2. こうした問題が生じないように、当社はいかなる対策を講じてきたか、また今後講じる予定か

<2013年>

【執行部及び監査役への質問】

1. トップマネジメントの意思決定システムと権限の在り方の問題。
 - 依然重要な決定権限が会長に集中していて、機動的な意思決定に支障を来しているのではないか。
 - トップマネジメント間の権限分担の規程上の決まりと現実の運用実態はどうなっているのか
 - 長期に亘りトップの座を占め続けるうちに、「ワンマン」化して、耳の痛いことを言う人間は排除され、自由闊達に物を言えない組織風土が醸成されるリスクが当社において弱点として顕在化していないか。
2. 米倉会長が会長を務められる経団連関係業務の本業への影響の問題。
 - 社内で優秀な人材が、経団連対応に投入されており、残された現場では悲鳴を上げているとの指摘。
 - 経団連関連業務にどれだけの人員が直接的・間接的に投入されているのか、また人員以外に経費負担という形で、どれくらい費用が発生しているのか。

<2014年>

1. CEO/COO新設の意義

—一部に囁かれる米倉会長が「院政」を敷くための制度変更であるとの馬鹿げた憶測を打ち消すためにも、説得力ある明快な説明をお願いしたい。

2. 企業集団のガバナンス・内部統制の充実強化について

①グループ企業で発生した不祥事2件について。

管理体制のどこに問題があり、再発防止策をどう構築されるのか。

②子会社の監査役の位置づけについて

常勤を置くか否かの判断基準、監査役に相応しい人材を選任するための基準の考え方、及び会社法で規定された4年間の任期の遵守等に関する基本方針。

【伊藤社外取締役への質問】

3. 社外取締役の役割について

社外取締役としての自らの役割は何であると認識し、この2年間でどこまで果たせたと自己採点されているか。

<2015年>

1. CEO・COO制度について

昨年4月に新設されたCEO・COO制度が、わずか1年でなくなった理由は何か。最高経営責任者を定める重要なガバナンス体制が、十分な説明もなく短期間で変わるのは無定見ではないか。

2. 伊藤社外取締役への質問

- ①CEO・COO問題に関してどういうチェック機能を果たしたのか。
- ②社外役員兼任の考え方。本年3月末時点で7社の社外取締役を兼任しているが、どう考えても、本来職務をこなしながらの兼任としては多過ぎであり、常識的に云って2～3社が限度ではないか。

<2016年>

1. CGコード関連

- ①株主や機関投資家との対話の場である、株主総会の運営に関して、従来から具体的に何がどう変わったのか、あるいはこれからどう変えていくおつもりか
- ②任意の諮問委員会として役員指名委員会と役員報酬委員会を設置されているが、委員長を社内取締役が務めているのは何故か。

2. ペトロ・ラービグ社関連

- ①第Ⅰ期分の当社業績への寄与実績と中期経営計画との対比
- ②第Ⅱ期の概要と当社の業績への寄与見込み(新中期経営計画への織り込み額)
- ③スタートの遅れと不安定操業という第Ⅰ期の教訓を第Ⅱ期に生かすべく当社としてどうサポートするか

<2017年>

1. 役員人事・報酬に関する問題

役員指名委員会と役員報酬委員会がどういう基本方針の下、具体的にどう運営されているのか(構成、対象範囲、取締役会決定にいたる手順等)。

2. 相談役・顧問制度について

当社の相談役・顧問の役割と処遇に関する基本的考え方と具体的任用条件(選任基準、任期、報酬、個室、専用車の有無等)。

3. サウジ・ラービグプロジェクトに関して

(1)ペトロ・ラービグ社全体の業績状況 (2)第Ⅱ期のスタート状況 (3)住化としての支援策の実施状況。ペトロ・ラービグ社に対する当社による会計監査、内部統制監査、監査役監査と内部監査がどう行われており、モニタリングとして十分であるのかを、監査役から説明を願いたい。

<2018年>

1. 社外取締役の監督機能、三様監査の監査機能の実効性確保の方策について

当社が実行している社外取締役の監督機能の実効性アップのための方策・工夫を社外取締役から、また三様監査の実効性アップのための方策・工夫を監査役から具体的に説明して頂きたい。

2. ESG経営やSDGsの推進について

ESG経営やSDGsに関して当社が成果を上げていることは喜ばしいが、一方実質を欠いた上滑りの傾向への懸念が指摘されている。それらを払拭するために、①現在の新たな取組みが従来のCSRやSRI、グローバルコンパクトとどう繋がりまた何が異なるのか、②単なる流行への便乗ではない当社経営にとっての本質的な意義付け、③化学企業ならではの特色ある取組みについて、説明をお願いしたい。

3. サウジ・ラービグプロジェクトについて

①現在の損益状況、②Ⅱ期計画の立上り状況、③当社の追加出資の額と時期、2015年4月提案からの変更の理由、④当社の有利子負債残額の見通し等について説明をお願いしたい。

以上